

研究タイトル:

社会表象としての 19 世紀英文学

氏名:	野々村咲子 / Sakiko Nonomura	E-mail:	nonomura@gifu-nct.ac.jp
職名:	教授	学位:	修士(文学), MA
所属学会・協会:	日本英文学会, 日本英文学会中部支部, ディケンズ・フェロウシップ日本支部, 名古屋大学英文学会		
キーワード:	19 世紀英国小説, ヴィクトリア朝文化, ディケンズ		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> ・19 世紀英国の社会・政治・歴史について理解を深めることができます。 ・19 世紀英国作家と諸作品や、ヴィクトリア朝の文化について考察することができます。 ・18 世紀後半から 20 世紀初頭にかけての精神科学について考察することができます。 		



研究内容:

社会表象としての 19 世紀英文学

本研究は、18 世紀後半から 20 世紀初頭にかけての心理学と精神分析学の発展を踏まえて、文学作品を社会の変化に対応した動的な表象として解釈することを目的としています。

19 世紀英国において、新たな知的学問として定着し発展した精神科学の視点から、ヴィクトリア朝文学において、自我というものがいかに表象されるかを考察しています。当時、精神や記憶の働き、自己認識と意思の限界についての議論が、医学や科学の専門領域において深まっただけでなく、様々なジャーナリズムを通して一般の読者にも広がっていきました。意識の変容した状態としての無意識や夢、狂気に対する関心が高まり、そうした思想や議論が社会的な現象として諸々の文献に現れてくることとなります。

特に、文豪チャールズ・ディケンズ(Charles Dickens, 1812-1870)とその周辺の作家を取り上げ、作品を政治的・文化的・科学的言説の枠組で捉え直し、作品と文化現象との相互作用を追究しています。諸作家が当時の精神科学の議論に積極的に関与しながら提示する新たな自我像に着目して、社会全体の知の体系を捉える手掛かりとしています。



Charles Dickens (1812-1870)

提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	